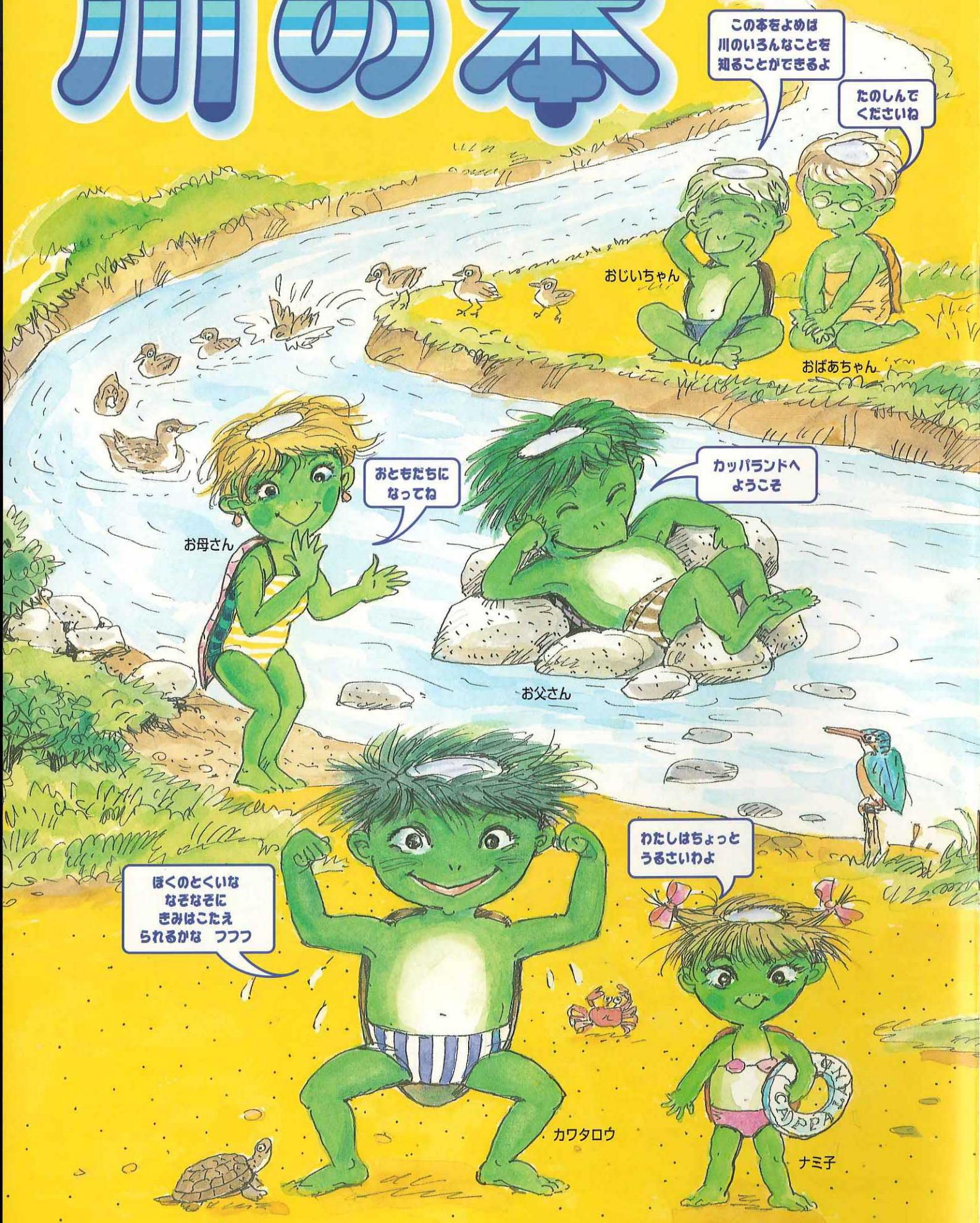


川の本

2001夏の号 No.51



ヒント①

ヒントをよめば
こたえがわかるよ



ぼくは日本一
足の長い信濃川だぞ

足が「みじかい」のに走るのが
「はやい」ふだんは「やさしい」が
おじむと「こわい」でもせつたい
「こない」と「ある」ものなんだ?
まみのお母さんじやないよ



こんなことしつてる?

川から洪水 (じゅうすい)
があふれだして、家を
つぶしたり、人のいのちを
うばったりしたらこまる。
そうならないようにする
のが治水だ。

堤防 (ていぼう) をつくったり、

ダムをつくったり、川はばを

ひろげたり、あさへ

なりすぎた

川をほったり、

洪水があふれやすい

下流の川に新しい

川のバイパスをつけて

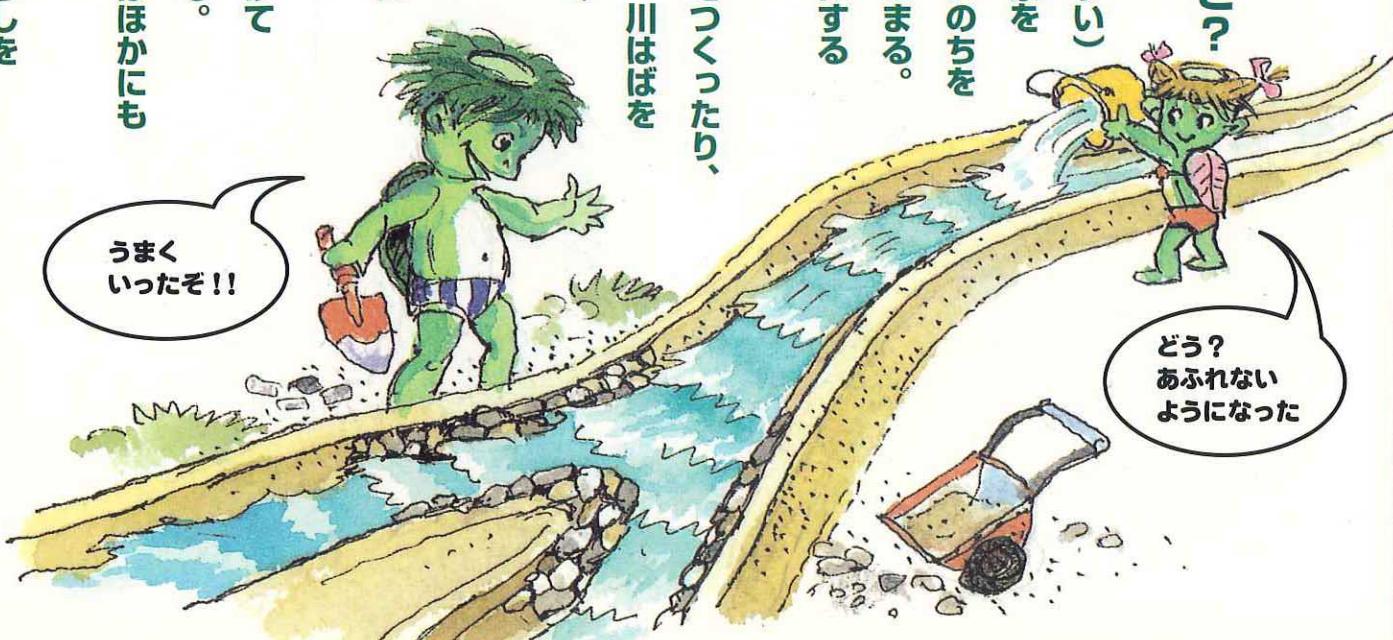
流れをわけたりする。

このようなくふうはほかにも
いくつもある。

治水はみんなのくらしを
守るたいせつなじごとだ。

うまく
いったぞ!!

どう?
あふれない
ようになった



ヒント②

ナイル川やアマゾン川など、外国の大河はゆるやかな平地をゆっくり流れれる。

日本の川はみじかくて急流、あつという間に海へ流れでてしまう。走るのが「はやい」というのがわかつたかな。

ヒント③

ふだんは「やさしい」というのはなんだろう。生き物はみな、水がなくては生きていけないね。

そのたいせつな水をはこんでくれる川は、なくてはならないものだ。

ふだんの川は遊びもできるし、魚たちにとつても、

やさしいお母さんのようだ。



ヒント④

おひるど「はやい」ってじりじりとか。それは洪水(こうがい)をおこしたときの、あばれ川のことだ。

日本は雨が多い国で、つむには長雨がふるし、台風が大雨をふらせることが多い。つまり日本の川は洪水をおこしやすいのだ。洪水が川からあふれだと水害がおひるこわいこわい。

さて、もう答はわかつたかな。
答は「日本の川」だ。



お父さんとのんだ水

山おくの岩のあいだから、わきだし
ている水をのんでみたら、つめたくて、すこしおいしかった。こんなきれ
いな水が、山のあちらこちらから集
まってきて、川になるなんてびっくり
した。川がだんだん大きくなつて、
海にでていくとちゅうで、きたない
ものがまざるから川はよじれるん
だつて。ぼくは、川をよじしたくない
から、ぜつたい川にものをすてたり
しないぞって、ちかったんだ。

むかしむかし、わしらかつばのせんぞは、中国のカラテンジユクといふに、住んでおつた。中国でいちばん大きな川、楊子江（ようすじゅう）の上流じゃよ。

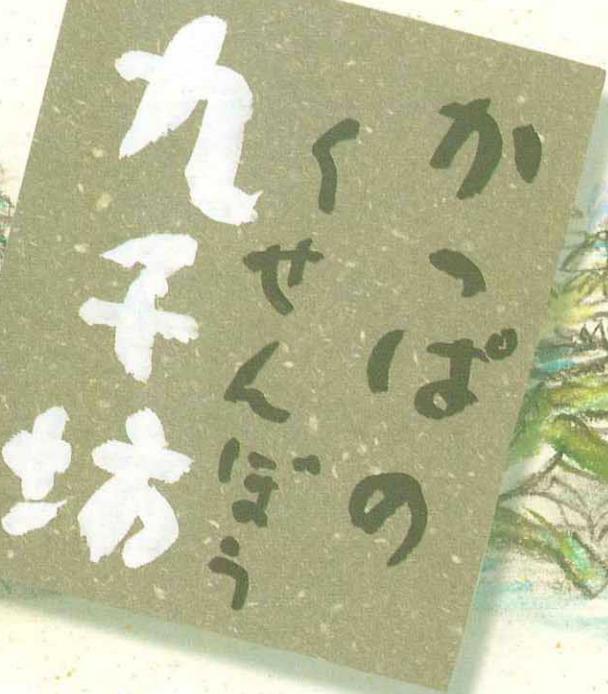
ところが、かつばがふえすぎてな、どこか住むところをかえようということになつた。そこで西洋へ行くグループと、東洋がいいというグループとに分かれたんじや。東洋がいいというグループでは、その中でいちばん大きくて力の強い九千坊というかつばがリーダーになつた。そして九千坊を先頭に九千匹ものかつばの大群（たいぐん）が楊子江をくだり、海をわたつてな、やつとたどりついたところが、九州にある球磨川（くまがわ）の河口じゃつた。もちろん泳いできたんじやよ。だからもうべとべとじやつた。

しかし、球磨川を見て、かつばたちはみんな急に元気になつた。球磨川の水は、すきとおりてきらきらしてじるし、おまけにかがやくような森のみどりにつつまれてゐる、こんな美しい川は見たこともなかつたからじや。

「ここは、まさに、かつばの天国だよ、つめたい水はおいしいし、こんなに住みよいところはない。九千坊さまについてきてよかつたよう」

かつばたちは、おおよろこびではしゃぎまわつた。なにしろ九千匹ものかつばが、さわぐのだからたいへんだ。うちょうてんになつて、人間のめいわくも考えず、烟をあらしたり、馬を川にひきこんだり、とんでもない、いたずらをする者もいる。人間にとつては大めいわくじやよ。こまりはてた人間たちは「なんとかして、かつばどもをこらしめてください」と肥後（ひご）の國のおとのさまに、うつたえたんじや。

そこで、おとのさまは、かつばが苦手とする猿をいっぱい集め「おもうぞんぶん、かつばをこらしめよ」とめいれいしたんじや。猿たちは、じんぞとばかりに、かつばをせめたててきた。これにはさすがの九千坊もまいった。そして、どうといふに、



し、かつぱたちは球磨川から、おいでされてしもつた。

しかたなく九千坊は九千匹ものかつぱをひきつれて、となりの国へ行き、筑後（ちぐじ）のおとのさまで、これからは、けつして、いたずらをしないと約束（やくそく）して、筑後川にうつり住むことができた。筑後川は九州一おおきな川で、かつぱたちは大まんぞくじやつた。その後、かつぱたちは、水難よけ（すいなんよけ）の神さまのお使いになつて、日本中の川で、はたらくようになつたといふわけじゃよ。

球磨川（くまがわ）とかつぱ伝説

熊本県 球磨川（くまもとけん くまがわ）

九州にはかつぱの伝説や民話がたくさん残っています。九千坊の話もそのひとつです。熊本県八代市（やつしろし）の球磨川河口の川べりに「河童渡来の碑」がたてられています。その碑は、今から一六〇〇年もむかしに、九千匹のかつぱが中国からこの地に渡ってきたという言い伝えにちなんだものです。そのころ、むかしの中国の吳（ジ）という國からおおせいの人気がやってきたという事実があつて、それを中国語の発音であらわした「オレオレーライタ」という言葉がその碑にきざまれています。

このように球磨川は、大昔から中国や朝鮮半島の人たちと交流のあつた川です。その美しい流れの長さは一一千五百メートル、水量はたいへん豊かで、下流域に広い平野をつくりてきた川です。かつぱたちが、うつり住んだ筑後川とともに九州を代表する川なのです。



川辺のキャンプは自然がいっぱい！

CAMP

キャンプを10倍たのしくする
ヒントをさがせ！



【お父さん お母さんへ】

川辺のキャンプは安全から。
天候に気を配りましょう。

- 気象情報をしっかりと調べておきましょう。
- 現地は晴れても、上流域で集中豪雨があつたりすると、急激な水位の変化がおこります。ヒザ下くらいの水深でも、水流が速くなると歩けなくなることがあります。
- なるべく指定されたキャンプ場がおすすめです。指定以外の場所でテントを張る場合、いつでも早急に避難できる安全な場所をさがしてください。
- 上流にダムがある場合、放流などで、一気に増水することがある。そのようなところでは、サイレンがなって危険をしらせてくれる。すみやかに指示にしたがってください。
- 過去の経験は、あてにできない。山の自然是気まぐれです。以前の経験がいつでも通用するとは限りません。
- 「まだ大丈夫だろう」「まだ」「だろう」をなくす。いくら楽しくても、早めに中止する勇気をもつてください。
- きちんと心構えでのぞめば、川はおそれいところではありません。楽しい思い出をつくってください。

この絵の中から見つけよう

カブトムシ3匹・クワガタ2匹・イヌ3匹・カラスアゲハ・クモ・水鳥3羽・ドクキノコ・テントウ虫
つりをする人・カヌー・フリスビーをしてる人・バードウォッチングする人・昆虫さいしゅうしてる人
ひるねしてる人・自転車・ジャカゴ・川の深いところは?・テントをはるときけんな場所は?



これなんだ?



じゃかご(蛇籠)

これは「じゃかご」といって、川の堤防が水の流れでけずりと
られないよう守っている。
よく見ると何本もの「じゃかご」
がならべられているね。その一つ
を見ると大蛇(だいじや)のせな
かみたいだ。それで「じゃかご」
といわれたらしい。この技術
(ぎじゅつ)は、大昔からつたえ
られてきたもので、昔は竹や、
やなぎの枝あんだ「かご」
に石をつめていた。いまでは、
じょうぶな鉄線に石をつめて
いる。自然にやさしい治水技術だ。

川のマメ知識

生きている化石といわれる オオサンショウウオ（国指定天然記念物）

約3000万年前のスイスの地層（ちそう）から発見された化石と、ほとんど同じ形の日本のオオサンショウウオは、世界最大の両生類で大きなものは1メートル以上にもなる。数も少なく、夜行性でほとんど人の前にすがたを見せない。山のきれいな水にしか、すまないらしいのでなおさらだ。美しい自然の川をだいじにしたいね。



河川愛護月間

7月1日→31日

7月7日は川の日です

河川環境管理財団は
みんなに愛される川であるように、
こんな仕事をしています。

- *よりよい水辺のプランニング
- *楽しく安全に遊べる川づくり
- *川をきれいに、川を愛する心を育む運動
- *未来の水辺を考えた調査や研究
- *せせらぎ・ふれあい基金

●この本は再生紙を使用しています。